

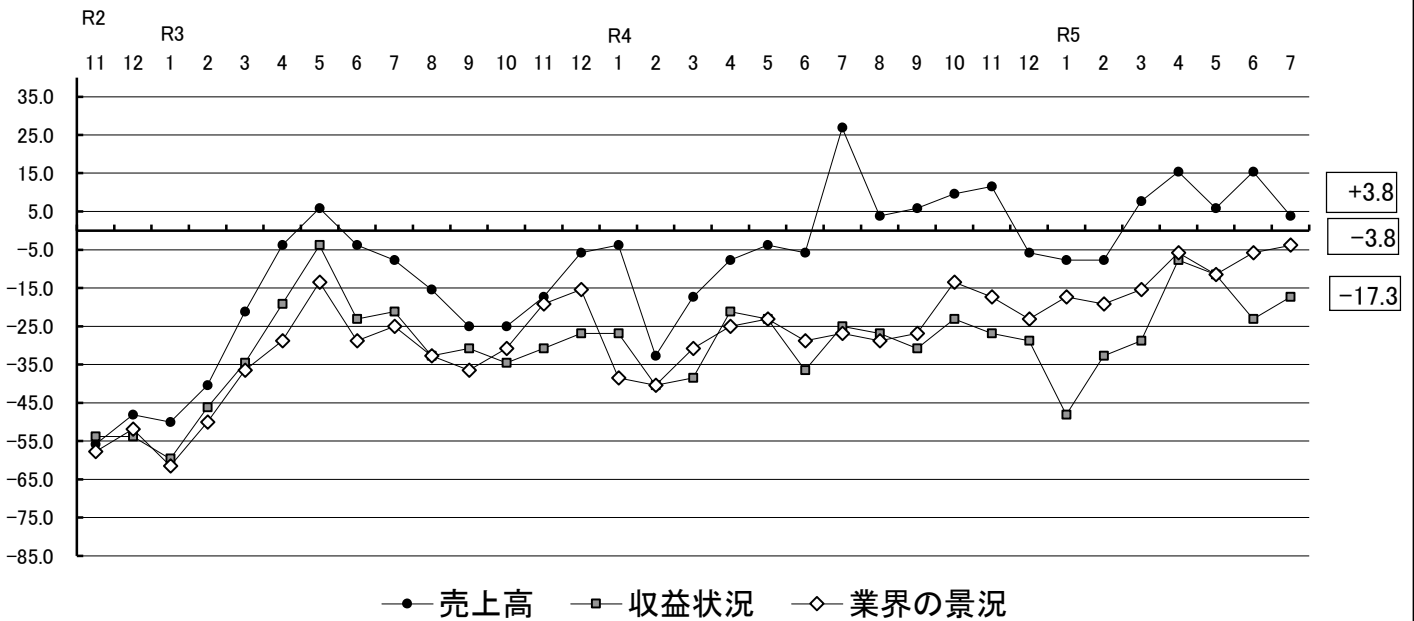
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和5年7月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は、売上高のみ下降し、収益状況は上昇、景況もわずかに上昇した。
- 製造業では「食料品製造」「一般機器」が好転の兆しが見える。非製造業では「小売業」が依然苦しい状態。
- 全業界が、止まらない原材料・燃料の高騰による経費の大幅増で苦しんでいる。また、人材不足問題も重くのしかかっている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	+3.8	-11.5	+2.3	+0.9
収益状況	-17.3	+5.8	-20.5	+1.1
業界の景況	-3.8	+1.9	-14.9	-0.2

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より11.5ポイント下降し、+3.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.9ポイント上昇し、+2.3ポイントとなった。

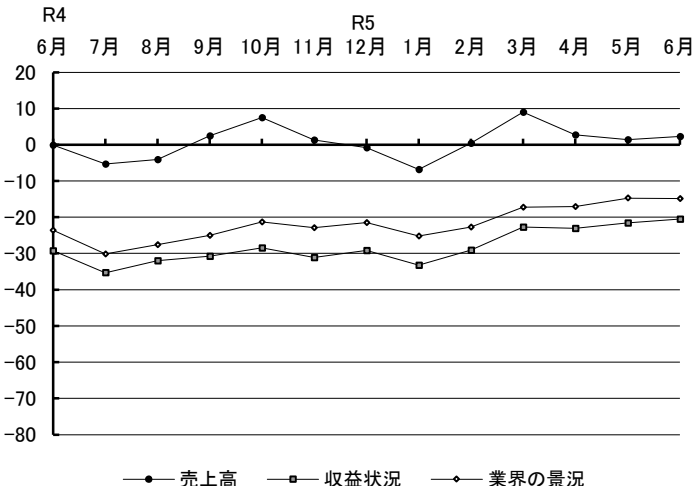
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より5.8ポイント上昇し、-17.3ポイントとなった。全国においては、前月より1.1ポイント上昇し、-20.5ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より1.9ポイント上昇し、-3.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.2ポイント下降し、-14.9ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

7月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中5指標が下降した。主要3指標は「売上高」は-11.5ポイント下降、「収益状況」は5.8ポイント上昇、「業界の景況」は1.9ポイントわずかに上昇した。多くの業界で「収益状況」の悪化が見られ、歯止めのかからない物価上昇の中で、十分に価格転嫁できない状況が続いている。

製造業では「食料品」が好転しており、新型コロナに関する規制緩和などによって外向き消費への意欲が高まっていることが回復に寄与しているようだ。一方、「木材・木製品」の景況悪化が続いており、回復への見通しが立たないでいる。

非製造業では「卸売業」の好調が継続しているが、「小売業」「サービス業」「建設業」は苦境が続いている。自動車の生産活動が活発化しており、関連の業種においても好調さが見られ始めているようだ。

ほぼ全ての業種で人材不足による稼働率低下などの問題が取り上げられている。旅館・ホテル業では人手不足によりフル稼働が難しく、外国人従業員の増加が顕在化している。人材不足の解消が今後の大きな課題である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	75.0	-25.0	50.0	-25.0	-50.0	-50.0	50.0	50.0	50.0
繊維・同製品	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
木材・木製品	-75.0	-25.0	0.0	0.0	-75.0	-25.0	-25.0	0.0	-100.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	50.0	-50.0	50.0	-25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
鉄鋼・金属	25.0	0.0	50.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0
一般機器	25.0	25.0	25.0	-25.0	50.0	0.0	50.0	0.0	25.0
製造業	16.0	-12.0	36.0	-16.0	-16.0	-12.0	12.0	0.0	-4.0
卸売業	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0		-33.3	33.3
小売業	-28.6	-14.3	14.3	-28.6	-57.1	-28.6		-28.6	-28.6
サービス業	-50.0		50.0	-16.7	-16.7	-16.7		0.0	0.0
建設業	20.0		20.0	-20.0	-20.0	0.0		-20.0	-20.0
運輸業	50.0		0.0	0.0	25.0	0.0		0.0	25.0
その他	-50.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-7.4	-10.0	25.9	-14.8	-18.5	-11.1	-14.8	-3.7	
全体	3.8	-11.4	30.8	-15.4	-17.3	-11.5	12.0	-7.7	-3.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	4年						5年								前月比
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
売上高	26.9	3.8	5.8	9.6	11.5	-5.8	-7.7	-7.7	7.7	15.4	5.8	15.4	3.8	-11.5	
在庫数量	-11.4	-5.7	-14.3	5.7	5.7	-5.7	2.9	2.9	-2.9	5.7	0.0	-8.6	-11.4	-2.9	
販売価格	32.7	30.8	30.8	36.5	34.6	30.8	23.1	25.0	36.5	30.8	36.5	34.6	30.8	-3.8	
取引条件	-9.6	-9.6	-13.5	-7.7	-11.5	-7.7	-11.5	-9.6	-11.5	-9.6	-7.7	-13.5	-15.4	-1.9	
収益状況	-25.0	-26.9	-30.8	-23.1	-26.9	-28.8	-48.1	-32.7	-28.8	-7.7	-11.5	-23.1	-17.3	5.8	
資金繰り	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-21.2	-21.2	-30.8	-17.3	-19.2	-9.6	-11.5	-15.4	-11.5	3.8	
設備操業度	4.0	-12.0	-12.0	4.0	12.0	0.0	-4.0	-8.0	-8.0	-0.0	-0.0	8.0	12.0	4.0	
雇用人員	-3.8	0.0	-1.9	-3.8	-5.8	-3.8	-1.9	-3.8	-7.7	-3.8	-7.7	-5.8	-7.7	-1.9	
業界の景況	-26.9	-28.8	-26.9	-13.5	-17.3	-23.1	-17.3	-19.2	-15.4	-5.8	-11.5	-5.8	-3.8	1.9	

特記事項

情報連絡員報告（令和5年7月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	業界的には人の動きは多くなり、場所によっては伸びているが、気温の高さにより菓子の購買が鈍っている。また、原材料の値上げなどもまだ続いている。
	めん類製造業	栃木県内でも時期的に夏祭りが復活し、各地で人出が増えて、経済的にも活気が出てきたように感じる。我々の同業の仲間のところにも受注が増えてきて、久々に忙しさを実感している。得意先の飲食関係においては、ゼロゼロ融資の返済時期を迎えて、返済に困窮しているところが見受けられるとの事。また、県北の食品スーパーが1社、自己破産が発生し影響を受けた仲間がいる。人手不足の関係で自家製麺のラーメン店から製麺の依頼があるとの情報もある。地域により、飲食店の経営が高齢化と後継者難で先細りのお店があり、自社の経営の将来の不安があるとの話もある。また、原材料資材とエネルギーコストの高騰が続き苦慮している。配送関係のガソリン・軽油等の国の補助が減額され、徐々にコストアップしている。色々なコストアップで経営に圧迫があり将来の心配の種がつかない。
繊維工業	縫製業	売上高は昨年同月とほぼ同じであった。ただし、原料や資材関係の入荷が遅く、工場の稼働に遅れが発生している。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	今月から徐々に来春シーズン向けの動きが出てきている。コロナ前の動きと比べるとまだまだ小規模ではあるが、アパレル向けの市場も下げ止まってきたような印象である。いまだに身近なところでコロナ感染を聞く機会もあるが、マスク着用せず、人の往来が増加傾向にあると実感するような報道を目にすると、経済活動の好転を期待できるのかなと感じている。
木材・木製品	家具・建具製造業	建具製造業者の受注減少が顕著となっている。材料価格はウッドショック前までは戻らず、収益状況は厳しい状態が続いている。資金繰り悪化先が増加しており、懸念材料となっている。
	建具製造業	住宅着工減少なども相まり、組合員各位仕事量の確保に腐心している様である。また、価格転嫁も進んでいないなど、収益確保が難しい状況。これとは別に、インボイス・電子帳簿保存法・最賃大幅上昇・働き方改革など、行政対応に苦慮している。
印刷	印刷業	7～9月は例年需要が落ち込む時期だが、今年は特に引き合いが少ない。官公需だけでなく、折込チラシ等の商業印刷など全体に減っている。材料その他、経費の値上がりに伴い、印刷料金の値上げをクライアントに要請しているが、引き合いそのものが少ない。
窯業・土石製品	陶磁器・同関連製品製造業	先月よりトラック等の運送料が上昇したため、販売額の見直しを行った。週末の観光客は多く思われるが、平日はほとんど見かけられない。やはり暑い時期は仕方がない時である。8月後半には陶器市の準備のため原料の売上は伸びる見込である。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	連日の猛暑日で工場内の暑さ対策に追われている。熱中症対策に加え機械も配電盤の過熱により緊急停止するなど様々な影響が出ている。異常な暑さで節電どころではない。自動車部品の生産は回復傾向にあるが部署により格差がある。人手不足で、人材派遣会社からもなかなか人材が見つからない。再びコロナ感染が増えてきているが暑さでマスクをしない時間も多く、クラスターにならないことを願うばかりだ。集中豪雨と落雷による停電(機械の緊急停止)が心配な季節だ。
	金属製品製造業	主な問題点は、電力費高騰と人材確保難による人手不足だ。
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月と比較し全般的にほぼ前年同様の組合員企業が多いが、仕入れ資材の状況は高値止まり傾向が続いており、電気料、消耗品等の更なる値上懸念がある。これに対し販売価格の転嫁が出来ている企業もあるが、企業間でまちまちの状況、転嫁が難しい企業も少なくない。結果として収益状況は全般的に不変といった企業が多い。操業度(稼働)はほぼ前年同様であるが減少企業も少なくない。今後のロシアによるウクライナ侵攻による化石燃料の更なる上昇や物価上昇等の懸念材料が多い。

	一般機械器具製造業	目覚ましいほどの景況の好転感はないが、半導体不足の解消がされつつあるようで、結果的に生産が順調になりつつあるように感じる。だが、円安による物価上昇はマイナス効果のほうが大きいと感じる。反面株高が続いているので好況のように錯覚してしまう。
卸売業	化粧品卸売業	商品の値上げがひと段落したように感じる。
	各種商品卸売業	商品の流通量は増加傾向にあったが、一時に比べ減少傾向にある感じを受けている。業種・取扱商品によって流通量に差がある。コストアップに伴う価格転嫁がしにくく、燃料価格の補助金終了による価格上昇など、今後も厳しい状況にある。そのため利益率が減少している企業も多い。従業員の人員確保が難しく、募集をかけても集まりにくい。
小売業	食肉小売業	輸入牛・国内産豚肉鶏肉の仕入れ価格が高騰しており、売価に反映できないため、利益が取れない状況だ。
	その他の小売業	夏期はエンドユーザーのガス使用量が減少するので、組合員全体として今月の売上高は減少傾向に転じるのは避けられない。先月に引き続き、人材確保について組合並びに組合員企業は人材獲得が難しく、やや人員不足の傾向が否めない。特殊な資格・スキルを要する業界のため、尚更その傾向が強いと言える。
	花・植木小売業	主力商品（菊など）の出荷量が連日の猛暑、光熱費の高騰の影響で減少し、材料調達に苦労している組合員も多い。8月のお盆商戦に向けて大きな不安材料である。
サービス業	自動車整備業	売上高を伸ばしている組合員がある中で、組合員全体ではやや減少している。人材確保も困難な状況。
	ビルメンテナンス業	除草業務で競争が厳しくなり、入札業務で受注が減少している。一般の高齢者宅の除草業務の依頼が増えている。
	旅館・ホテル	今月も引き続き、県民割りの有無が影響したぶん悪化している。また、従業員不足対策とした外国人従業員の定職もままならず相変わらず平日の休館を余儀なくされている。そのような中、コロナの支援策であった融資の返済も開始され、また、宿泊単価が上がった事が今後どのように影響されるか先行きが懸念される。
建設業	職別工事業	売上高においては前年同月比約10%ほど上回っているものの、前月に引き続き依然として仕入価格の上昇が続いており、収益面を圧迫している。また、業界全体として人手不足の状態が続いている。
運輸業	貨物自動車運送業	輸送量については減少傾向にあり採算の取れないものについては受注を控える現状である。一部の荷主企業での生産調整等により、荷動きが停滞している状況である。燃料価格も高止まりのまま推移しており厳しい状況が続いている。燃料価格抑制の補助金が予定通り9月末で終了となれば、一段と負担が増すことが考えられる。
	一般乗用旅客自動車運送業	前年比で売上は3割近く伸びているが、物価上昇、特に燃料費の高騰により経費の大幅増となり、先行きが懸念されるどころだ。
その他の非製造業	大谷石採石業	大口の取引が少なく、売上高は減少気味。観光事業者はコロナ前に戻りつつあるようだ。